広島県看護協会報

訪問看護出向事業

職場紹介

訪問看護版インターンシップ

【社会経済福祉委員会コーナー】 セル看護提供方式®を取り入れて 患者・家族からの暴言暴力に対する対応

【助産師コーナー】 アドバンス助産師の新規・更新申請

【看護師コーナー】 つなごう、看護の手 ~私たちのメンタルヘルスケア

[Information] 「チャレンジ」活用事例集Vol.3を発刊

広島県看護協会 会員特典のご案内



令和6年度 広島県看護協会通常総会 と き/令和6年6月15日(土) 13:00~16:00 ところ/リーガロイヤルホテル広島



訪問看護出向事業

広島県看護協会事業部

超高齢社会を迎え、医療・介護の需要が増加する中では、病院と訪問看護ステーションが 連携して地域包括ケアシステムを推進することが求められています。

この事業は、病院の看護師が一定期間(3カ月程度)、病院に在籍したまま訪問看護ステーションに出向し、訪問看護に従事しながら在宅療養支援能力の向上を目指します。

令和5年度は3事例の出向があり、出向者、受入れ施設の双方に大きな成果がありました。



地域との協働に向けて

出向者の立場から

広島大学病院 副看護師長 大倉 木の実

令和5年10月1日から3カ月間、訪問看護ステーション「こい」へ出向しました。緊張の中で開始しましたがスタッフの皆様の丁寧な指導のもと、安心して訪問看護業務を行うことができました。私は退院支援看護師として、日頃より訪問看護の力を身近で感じていたため、医療依存度が高くても在宅で支援できると考えていました。しかし、出向中に訪問した160件の中には看護師だけでは実施できない処置や診療報酬や経営上の問題で訪問回数に制限がある等、在宅で全てを完結することは困難であることを実感しました。今後は、病院と地域がお互いの強みと弱みを理解し協働することが必要と考え、更なる連携強化に向けて取り組んでいきたいと思います。



利用者の望みを叶えるために

受け入れ側の立場から

広島県看護協会 訪問看護ステーション「こい」所長 道法 和恵

基幹病院に勤務されている出向者の在宅療養支援能力の向上が図れるような研修計画作成を心がけ、基幹病院に通院中の人、独居、高齢者世帯、医療依存度の高い人を中心に訪問調整を行い、多様なニーズと課題を抱える利用者の多職種連携の実際から、在宅療養可能な患者像が広がるよう工夫しました。また、事業所内のカンファレンスや多職種との会議において、事例を振り返りながら、基幹病院と連携する中での課題をそれぞれの立場で話しあえたことは、職員にとっても学びの場になり、相互理解に繋がりました。

今後も、『住み慣れた自宅で過ごしたい』と希望する利用 者の願いを叶えるために、出向事業の受け入れを積極的に 行っていきたいと考えています。



「こい」の職員との写真です。前列中央が大倉さんです。



在宅へ繋ぐ 看護に向けて

出向者の立場から

広島市立広島市民病院 主任看護師 清水 紘美

令和5年10月から3カ月間、訪問看護ステーション「ひろ しま」へ出向しました。

患者さんが急性期病院で治療を受けた後、在宅で安全 に療養生活を送ることができているのか、実際を知るため に出向を希望しました。

約160件の訪問看護を通し、できるだけ家で過ごしたいと 思われている方が多く、様々な資源を活用することで在宅療 養が可能であることが理解できました。その思いを支えるた

めに、病院と在宅の医師や看護師など多職種で連携を密に取る必要があります。患者さんが治療を継続しながら、安心して療養生活が送れるよう入院前より環境を整え、情報を在宅へ繋げていくことの重要性を実感しました。今回の学びを自身のスキルアップに留めることなく、組織に還元し、退院支援の強化に向け尽力していきたいと思います。



訪問看護出向事業の受け入れ を終えて

受け入れ側の立場から

広島県看護協会 訪問看護ステーション「ひろしま」所長 遠藤 泰子

利用者を生活者として看ることを理解してもらうため、1 カ月目は同行訪問を中心とし、2カ月目からは単独訪問を徐々に増やし、3カ月目にはサービス担当者会議や退院前カンファレンスへの参加、地域の専門職等との多職種連携を多くしていきました。出向者の受け入れにより、職員が短期間で「訪問看護師」を育成することで、人材育成のスキルアップを実感し、職場の活性化にもつながりました。また、研修受講や病欠によるマンパワー不足を補うこともでき、

ありがたかったです。

出向事業を通して、私たち看護師は 病院・在宅それぞれの立場で、患者・利 用者に寄り添い、個別性に応じた看護 の提供が重要であることを再認識でき たことも大きな成果だと実感していま す。



3カ月お疲れ様でした。



訪問看護出向事業に 参加して

出向者の立場から

尾道市立市民病院 看護主任 横山 利恵

私はこの度「訪問看護ステーションむかいしま」で3カ月間、訪問看護の実際を学んでまいりました。

様々なご自宅を訪問させていただく中で私が感じたことは「幸せの形は人それぞれ」と言われるように「生活の形や思いも人それぞれ」ということです。この経験から退院支援とは、医療者が困難と感じる生活に着目するのではなく、患者家族がどのような生活を望んでいるのかを知り、そしてどのような

資源を活用しゴールに向かうのか をマネジメントしていく事であると 学びを深める事ができました。

今後は院内教育における在宅療養支援能力の質向上を図り、地域全体で切れ目のない医療・看護の提供を行い「その人らしく地域で暮らすこと」への実現を目指したいと考えています。



出向事業は双方の大切な学び

受け入れ側の立場から

訪問看護ステーションむかいしま 管理者 池田 絵美

令和5年10月より3カ月間、訪問看護業務に出向していただきました。利用者様の受け入れもよく、同行訪問から単独訪問も色々なケースの訪問で学びを得ていただきました。当ステーションも出向事業の受け入れが初であり不安もありましたが、看護の場は異なっても同職として同行訪問する中で私達が行っているケアの再確認や他の方向性があることを双方が学び気づける大切な経験となりました。ま

た、出向事業は利用者様が病院・在宅を行き来する上で必要な地域連携や支援・介護に直結するため、安全安楽な原の 生活・日常生活を送るための場にもなりました。この学びを今後の支援に活かしていきたいと思います。



むかいしまスタッフの写真です。向かって前列左側が横山さんです。

社会経済福祉委員会コーナー

セル看護提供方式®を取り入れて

浜脇整形外科病院 副看護部長 甲 斐 久 美 子

セル看護提供方式®とは、看護師の 動線の"ムダ"を省くことで患者さんの そばでケアできる時間を確保し看護 の質向上を目指す看護提供方式です。 当院では令和元年よりセル看護提供 方式®の導入の検討を始め、令和4年 4月より本格導入しました。

看護師が病室や廊下にいる事で 観察強化ができると共に患者・看護 師双方が声をかけやすい環境となり、 先取り看護に繋がっています。

導入2年目のアンケートでは、患者さんから「ナースコールで呼ばなくても済むことが増えた」「そばにいてくれるという安心感がある」、看護師からは「ベッドサイドにいることで今まで気づかなかった細かい事も見えるようになった」「患者さんの床頭台整

理などを自然にできるようになった」という肯定的な声が多くありました。

特に認知症患者やせん妄状態時は、必ず誰かがベッドサイドにいて見守るようになりました。そのことで身体拘束をほぼゼロにすることができています。また、これらの結果は看護師のやりがいにも繋がっています。







病室内待機の様子

リスクマネジャー意見交換会

患者・家族からの暴言暴力に対する対応 ~個人ではなく、組織として毅然と対応することの重要性~

社会経済福祉委員会 村中 好美 (JA広島総合病院)



大元和貴先生

令和6年1月 24日、今期最大 の寒波襲来によ り急遽のオンラ イン形式となり ましたが、第2回

リスクマネジャー意見交換会を開催 しました。講師を大元・秋山法律事務 所弁護士の大元和貴先生にお願い し「暴言暴力への対応」について、具 体例も織り込みながらご講演いただ きました。 まず、応召義務については過度に恐れる必要はないことを話されました。次に、患者・家族からのクレームや暴言・暴力などの問題行動については、施設内の対応をマニュアル化し「目に見える形で注意する」ことが大切とのことでした。意見交換を終えて業務妨害についての質問があり、大声を出されて「怖い」「話ができない」など対応が難しいことは素直に伝えてよい、患者の言いなりになることが医療ではないと話されました。職

員の安心安全のためにも組織としての毅然とした対応が重要であるなど、 講義や意見交換を通して多くの学び を得ることができました。





アドバンス助産師の新規・更新申請

助産師職能委員会

三島 香織

(独立行政法人国立病院機構福山医療センター)

アドバンス助産師とは、助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー/CLoCMiP®)レベルIII認証制度で、助産実践能力が一定の水準に達していることを認証された助産師です。up to date な知識を有し、標準的な助産ケアを自律して提供できる能力を客観的に評価された専門家です。第8次医療計画には周産期医療提供におけるアドバ

ンス助産師へ求められる役割と重要性が明記されています。また、現代の少子高齢社会では妊娠・出産へのニーズは多様化し、女性の生涯にわたる健康問題をサポートする能力が求められています。自己のキャリアアップのためにも、認証申請・更新をしていきましょう。

看護師コーナー

三職能合同研究会

つなごう、看護の手 ∼私たちのメンタルヘルスケア〜

看護師職能委員会 荒木 美香 (庄原赤十字病院)

令和5年度三職能合同研究会を、 51名参加のもと、令和6年2月4日に 開催しました。

いきいきと働き続けるためのメンタルヘルスケアを考える、と題し、愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター 内藤知佐子先生によるご講演をいただきました。どの様な内容になるのかわくわくしていましたが、先生の第一声から元気とパワーをいただき講義が進んでいきました。

過労死と自殺の増加が社会問題 化された1980年後半よりメンタル ヘルスケアが注目され、不調のサイ ンについて、相談を受けたら行うこと など分かりやすくお話されました。更 に、やる気スイッチの入れ方、他者理



内藤知佐子先生

解をし、世代ごとの関り方のコツなど 明日から実践できるよう、例を用いて 具体的に話してくださいました。

コメントスクリーンを使用した参加型の研修でバディシステムを活用しバディとのセッションを研修中に繰り返すことで、心の中にある思いを素直に叶き出し心が軽くなる不思議な

感覚を覚えました。

講演後、参加者の方の感想より、「自分もスッキリできました」「明日から実行できる内容が盛りだくさんでした」「時間が経つのを忘れるほど有意義な時間でした」などの声をいただき、参加者全員が満足した研究会となりました。





中山間地域を支える病院を目指して

安芸太田病院 看護師長 菅 志麻



訪問診療の様子

安芸太田町は、広島県北西部に位置しており人口は広島県内で一番少なく、高齢化率が52.8%と一番高い地域です。安芸太田病院を利用される多くの方が高齢者で、町民のみならず町に隣接する地域の方にも、なくてはならない町内で唯一、入院のできる病院です。

中山間地域医療を担う当院の外来では、救急患者の受け入れをはじめ、12診療科の一般外来、外科・整形外科的手術、内視鏡検査、人間ドックなどの医療の提供を行なっています。また、入院病棟は令和2年度に急性期病棟52床を地域包括ケア病棟へ転換し、令和5年度には療養病棟52床のうち、10床を介護医療院に転換しました。地域住民のニーズに対応のました。地域住民のニーズに対応がなどの流手術の提供は継続のまま、在宅への退院に向けてリハビリ強化を行っています。当院のミッションでもある、「保健・医療・福祉の側面から、地域

住民の健康を守り生まれた時から生涯を通じて人としての尊厳が約束された地域社会を実現する」に向け、看護部は患者の「自宅に戻りたい」気持

ポート体制を整備し「訪問患者・受け持ち制度」を始めました。利用者の多くが、病院に併設されている訪問看護や訪問リハビリを利用されているため、これらの多職種と定期的にカンファレンスを開催し、受け持ち患者の状態の把握と素早いケアの提供に繋げ、アドバンス・ケア・プランニングへの取り組みも今後は深めていく予定です。

また、当院ではコロナの全国的な流行以降は、遠隔オンライン診療の運用を始め、現在はAI問診やオンライン診療、オンライン眼科検診、外来患者の待ち時間短縮に繋げるための、患者呼び出しcall機器なども導入し、職員全員でICT機器を使いこなしながら、医療の提供に地域差が感じられない取り組みも行っています。



様々な医療ICT機器



安芸太田病院

訪問看護版インターンシップ(今和6年3月)

広島県看護協会事業部

訪問看護版インターンシップは、訪問看護に興味のある看護学生が職場体験を通して、訪問看護の魅力の発見や関心を深め、訪問看護ステーションへの就業を促進することを目的に実施しています。近年、在宅看護に興味のある学生が増え、回を重ねるごとに参加校が増えています。また、実施施設も28施設まで拡大し、どこの学校にも近くに体験できるステーションがある環境が整いました。インターンシップの様子は、本会ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

体験者の立場から

インターンシップからの学び ~在宅ケアと家族の関係性~

広島大学 医学部 保健学科 看護学専攻 古謝 海愛

私は、病院実習を通して、患者の退院後の生活に関 心を持ったことがきっかけで在宅看護に興味を持ち ました。入院中には、看護師ができることに限界があ り、患者の生活習慣を変えたり、生活に合わせた看護 を行うことが難しいと感じました。今回、インターン シップを経験して、長期的に患者の経過を見ることが できる点に魅力を感じました。また、患者と看護師だ けでなく、家族や患者の周囲の人を含めた視点で看 護を行う必要性を強く感じました。病院での看護と在 宅で行う看護の違いを実感することができました。在 宅でのケアと支援を通じて、患者や家族が尊厳を保 ちながら安心して暮らせる環境を提供することが、私 の将来の目標です。患者の「最期まで家で過ごした い」という願いを叶えたいと考えています。また、家族 が介護を行う中で肯定的な経験を得られるよう支援 していきたいです。

受け入れ側の 立場から

学生を迎えて感じたこと

あいリハ訪問看護 広島南 管理者 平石 都視

令和5年度よりインターンシップの学生を受け入れています。

訪問看護に興味を持ち学びを深めたいと思って来てくださる学生さんが同行することで、職員も新たな気付きができ自分自身の振り返りにもなるので良い取り組みだと思います。

訪問看護の実際を学生の間に見て知って深く学べる機会があることで、今後の目標などにもつながり、 実際にいつか訪問看護で働きたいと思ったときにも この経験を思い出すことが安心感にもつながるので はないかと思いました。

訪問実習に比べ、気軽に体験できる良い機会だと思うので、訪問看護に興味がある学生さんはもちろんですが、誰でも来ていただきどんなことをしているか知っていただくきっかけになればと思います。



利用者様と体調等についてお話をしました。



訪問看護やその経営について学生さんとお話ししました。

「チャレンジ」活用事例集Vol.3を発刊しました。

執筆にご協力いただきました施設の皆さま、ありがとうございました。 活用事例集は広島県看護協会のHPに掲載しています。

令和6年度の広島県版自己点検ツール 「チャレンジ | 推進事業予定

7月4日(木) チャレンジキックオフ[事例共有会](締切り終了)

アンケート実施 8~9月

ワークショッププラス(広島・福山) 11~12月 ワークショッププラス報告会 3月6日(木)

ぜひ参加して くださいね



会員特典のご案内 広島県看護協会



広島県看護協会が開催 する研修会を会員料金



広島県看護協会報、 日本看護協会ニュー

で、看護・医療 の最新情報を 入手できます



図書室の利用





キャリア アップを 目指す 方へ

看護職賠償責任 保険の加

日本看護協会会員 が任意加入できる 保険です



顧問弁護士への相談

日々の業務で抱えて いる様々な問題 について相談 できます





研修会受講料 免除制度 ※60歳以上の方



広島県立美術館



詳細は広島県看護協会ホームページをご覧ください!







広島県随一の寒冷地である庄原市には、明治時代に日本初の「国立種牛牧場」が創設さ れた場所である七塚原高原があります。創設時には、牧場内にポプラを植樹され、今も約 130本が約200mに渡って空高くそびえています。現在も畜産の研究が進められており、県 内最大の生産量を誇る庄原産生乳を使ったジェラートやチーズ、餅菓子などは絶品です。 乳製品と聞くとカルシウムをイメージするかもしれませんが、タンパク質や炭水化物、ビタミ ンなども豊富なため、私たちの毎日の健康に必要不可欠な食品です。広大な牧草地に広が る新緑のポプラ並木の景色を眺めながら、美味しい乳製品を堪能して看護のための英気 を養いませんか? (大道 理恵)

広島県看護協会報 看護ひろしま

2024年6月

発行所 公益社団法人 広島県看護協会

〒730-0803

広島市中区広瀬北町9-2 TEL:082-293-3362

発行責任者 山本 恭子

編集 広報委員会 制作 有限会社パル